

香取市地域公共交通協議会 (第 45 回協議会資料)

目 次

議題 1 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

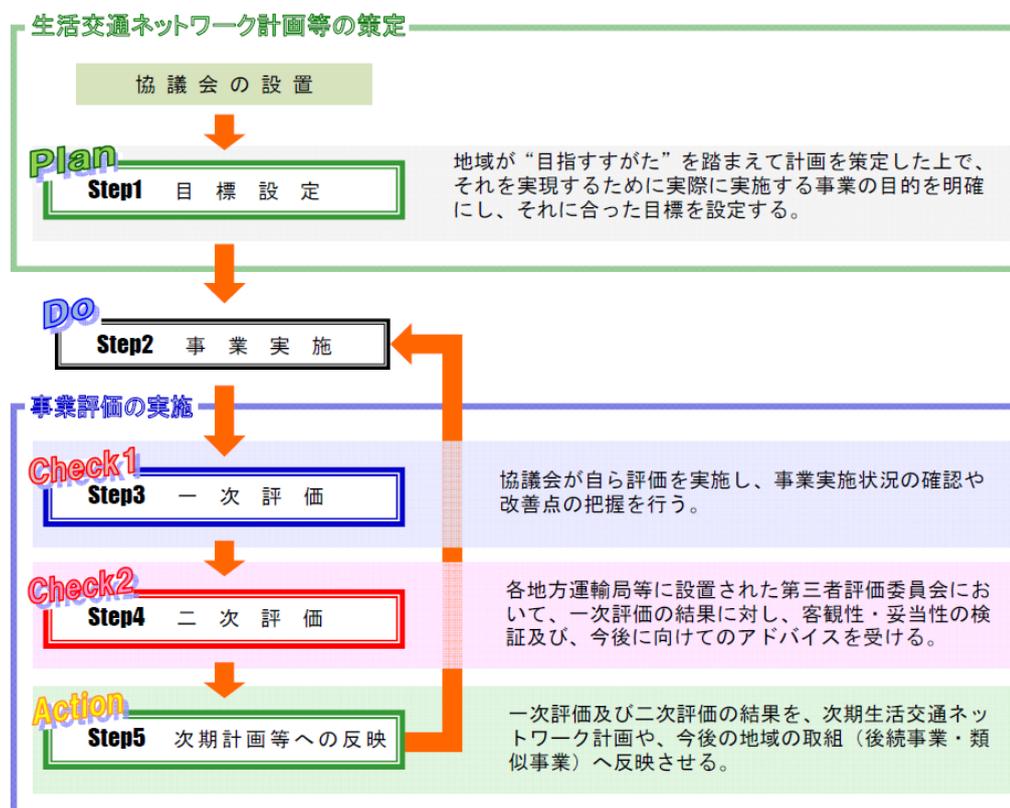
議題 1 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

地域公共交通確保維持改善事業は、地域公共交通の確保・維持を図るとともに、地域公共交通の改善に向けた取組を国が支援する制度であるが、これらの取組は一過性のものではなく、継続的な実施が求められている。地域が実施した事業の内容を振り返って、目標の達成状況などを評価・分析し、次の取組に反映していくという継続的な取組が重要なことから、国土交通省では、それらの取組を「事業評価」として制度化している。

なお、令和3年度事業期間は、令和2年10月から令和3年9月となる。

(1) 評価対象事業 地域内フィーダー系統確保維持事業

(2) 事業評価の流れ



(3) 評価項目

地域公共交通確保維持改善事業の事業評価については、「地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目」に定められた様式に基づいて評価を行う。

●資料 別添1参照

令和3年度計画の事業評価

1. 小見川循環バス

(1) 概要

事業者名：千葉交通株式会社
運行系統：上の台経由、城山公園経由 計 30.6 km
運行日：月曜～金曜
 (土・日曜日、祝日、振替休日、年末年始運休)
運行時間帯：6時25分～18時31分
運行本数：9便/日
運行車両：日野リエッセ(乗車定員37名) 1台
運賃：大人300円、中高生100円
 小学生以下・障害者手帳所持者・・・無料
 回数乗車券・・・12枚綴り1,000円



※令和2年12月1日より、城山公園経由を小見川高校へ延伸
令和3年4月1日より、回数乗車券の販売額を変更
12枚綴り3,000円(大人のみ) ➡ 12枚綴り1,000円

(2) 目標の設定

【目標1】小見川循環バス：年間利用者数 13,200人

【目標2】小見川循環バス：収支率 16%以上

小見川循環バスは、直近年度の利用実績及び利用者推移、委託料、運賃収入から目標値を設定した。

(3) 目標の達成状況

【実績1】小見川循環バス：年間利用者数 12,025人 未達成

【実績2】小見川循環バス：収支率 14.2% 未達成

(4) 利用状況

資料別紙 1、2 参照

(5) 考察

小見川循環バスは、利用者が 12,025 人であり、前年度実績 10,610 人から 1,415 人(13.3%)増加したが、目標値 13,200 人には、1,175 人及ばず未達成であった。

収支率は 14.2%であり、前年度実績 12.9%から 1.3%改善されたが、目標値 16%以上には、1.8%及ばず未達成であった。

上の台経由は、利用者が 3,792 人であり、前年度実績 3,989 人から 193 人(4.9%)減少した。主な利用者属性が高齢者であるため、新型コロナウイルス感染症のまん延により、外出を控えたことが未達成の要因と推察される。

城山公園経由は、利用者が 8,229 人であり、前年度実績 6,621 人から 1,608 人(24.3%)増加した。主な利用者属性が通学の高校生であるため、コロナ禍においても利用が堅調であったことが増加の要因と推察される。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない令和元年事業の 7,439 人と比較しても 790 人(9.6%)増加している。小見川高校前への延伸等の利用促進事業が一定の効果を上げていると思料される。



生活路線である小見川循環バスが運行され、高校生や高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保・維持されている。

(6) 改善点

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化することを鑑み、コロナ禍での利用実態に即した計画目標値に見直す必要がある。

上の台経由は、今後も新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けることが予想されたため、令和 3 年 10 月の再編において、便数を 1 便削減し最適化を図った。また、新規利用者獲得のため、新たに栗源高萩地区へ乗り入れを開始した。利用実態を研究し、利用者確保に取り組む必要がある。

城山公園経由は、新型コロナウイルス感染症のまん延により、お試し乗車券事業が実施できなかった。代替事業を検討し、引き続き利用者確保に取り組む必要がある。

2. 小見川乗合タクシー

(1) 概要

事業者名：京成タクシー成田株式会社
運行区域：小見川中央・東・南地区
運行日：月曜～金曜
 (土・日曜日、祝日、年末年始運休)
運行時間帯：8時～17時
運行本数：9便／日
運行車両：トヨタコンフォート(乗車定員5名) 2台
運賃：大人600円、中高生300円、小学生以下無料
 障害者手帳所持者300円、介助者300円



※令和3年4月1日より、運賃改定

(2) 目標の設定

【目標1】小見川乗合タクシー：年間利用者数 6,700人

【目標2】小見川乗合タクシー：収支率 15%以上

小見川乗合タクシーは、直近年度の利用実績及び利用者推移、委託料、運賃収入から目標値を設定した。

(3) 目標の達成状況

【実績1】小見川乗合タクシー：年間利用者数 6,426人 未達成

【実績2】小見川乗合タクシー：収支率 15.9% 達成

(4) 利用状況

資料別紙3、4参照

(5) 考察

利用者数は6,426人であり、前年度実績6,340人から86人(1.4%)増加したが、目標値6,700人には、274人及ばず未達成であった。

主な利用者属性が高齢者であるため、新型コロナウイルス感染症のまん延により、外出を控えたことが未達成の要因と推察される。

収支率は15.9%であり、前年度実績11.4%から4.5%改善され、目標値15%以上を達成した。

令和3年4月からの運賃改定より、運賃収入が増加したことが達成の要因と推察される。



小見川地区に存在する交通不便地域の一部が解消され、高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保・維持された。

(6) 改善点

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化することを鑑み、コロナ禍での利用実態に即した計画目標値に見直す必要がある。

1便あたりの平均乗車人数(乗合人数)が2人未満であることから、利用実態に合わせた運行便数の最適化を検討する必要がある。